

## 特集 ◆ 地域包括ケア病棟



“ときどき入院ほぼ在宅”の達成へ

地域包括ケア病棟を拡充

患者サポートセンター

TEL 075-671-2523 (直通)

FAX 075-671-2654 (直通)

8:30~17:00 日曜日・祝日・祭日・年末年始除く

### 理念・基本方針

- 1.地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
- 2.プライバシーの尊重と心のふれあいを大切に、利用される皆様患者さんとの良い信頼関係を築きます。
- 3.安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
- 4.私たちは、病院という生命に直接関わる職場に勤務することを自覚し、生きがいと誇りの人間性豊かな医療人をめざします。



十条武田  
リハビリテーション病院



患者サポートセンター



医療法人財団 医道会

十条武田リハビリテーション病院

〒601-8325 京都市南区吉祥院八反田町32番地  
TEL 075-671-2351 (代表) FAX 075-671-2961

特集 ◆ 地域包括ケア病棟

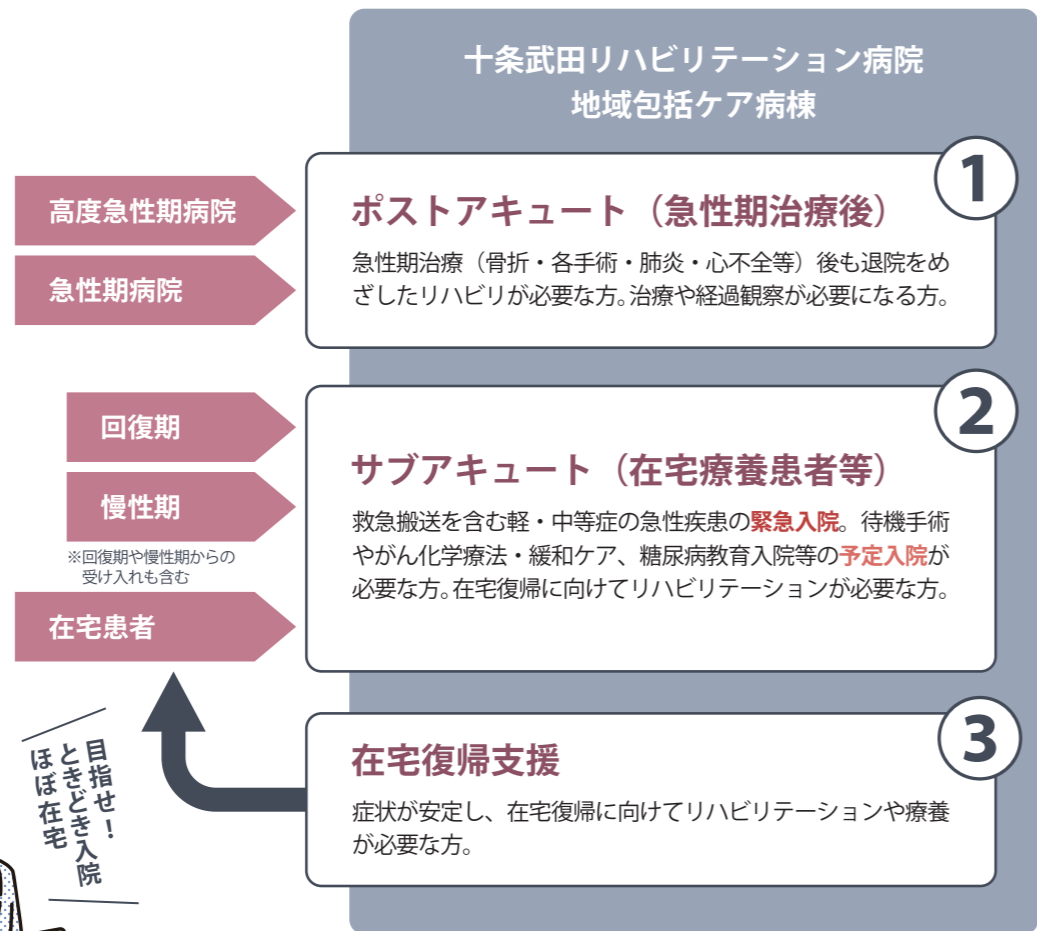
当院では、地域医療介護福祉のさらなる充実に向け「地域包括ケア病棟※」を43床から60床に拡大しました。今号では、あらためて地域包括ケア病棟の機能と当院の取り組みをご紹介します。

地域包括ケア病棟は、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折など対象疾患が限定される回復期リハビリテーション病棟と異なり、廃用症候群や認知症の方を含む様々な患者さんに対応できるのが大きな特徴です。その目指すところは、病院、診療所、介護福祉等を一体としたサービス提供体制の構築で、切れ目をなくし「ときどき入院ほぼ在宅」を達成するため、①ポストアキュート、②サブアキュート、③在宅復帰支援の3つの機能を備えた、いわば地域医療の“駆け込み寺”とされています。

主な対象・機能は図をご覧ください。疾患の治療や運動機能の回復に加え、栄養サポートやポリファーマシー対応など多職種協働で在宅復帰をめざします。診療所、病院、地域包括支援センター、介護・福祉サービス等の協力をいただきながら、一緒に患者さん、ご家族を支えてまいります。

※地域包括ケア病棟入院料1

地域包括ケア病棟の主な対象・機能

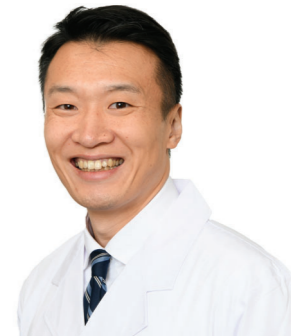


【地域包括ケア病棟】  
算定は最大60日間/リハ、投薬、検査、処置、入院基本料は月額包括

Masataka Minami

肩・肘のスポーツ障害が専門  
整形外科疾患全般に対応します

整形外科 医長 南昌孝



これまでスポーツ整形外科医として、肩肘を中心にさまざまな怪我・疾患に対応してきました。得意とするのは投球障害などスポーツによる怪我の治療や予防です。重要な時期に「どこまで無理をしても良いか」を示して活躍を後押しするなど、患者さんやご家族に寄り添いながら専門医としての役割を果たしてきました。

当院では一般整形外科を担い、学童期から中高年に至る年齢層の幅広い疾患に対応してまいります。とくに中高年では、肩の腱板断裂を起こすことが多く、四十肩・五十肩と誤解するケースも少なくありません。MRI等の検査はもちろん、外来診療中に超音波で手軽に検査することが可能です。とくに私は、この超音波検査を得意としております。

患者さんやご家族もチーム医療の一員であり、一緒に治療を進めていきたいと思っています。地域の先生方におかれましても、該当する患者さんがおられましたら、お気軽にご相談ください。

【略歴】

2012年 京都第二赤十字病院、初期臨床研修  
2014年 京都府立医科大学病院 専攻医  
2019年 京都鞍馬口医療センター 整形外科医員  
2024年 米国メイヨークリニック 整形外科 リサーチフェロー

【所属学会・認定医】

■日本整形外科学会  
■日本スポーツ整形外科学会  
■日本肩関節学会  
■日本肘関節学会

Koutaro Mochimaru

コミュニケーションを大切に  
地域医療に貢献したい

リハビリテーション科 専攻医 持丸 浩太郎



健康寿命の延伸に直結すると思われリハビリテーション科を志望しました。日々の患者さんとのコミュニケーションのなかで、この領域での遣り甲斐を感じています。

また、さまざまな診療科と関わることができるのも当科の大きな魅力と感じています。患者さんはもちろんのこと、病院内外の関係者の方々とのコミュニケーションを大切に、地域医療の一助になればと考えております。

【略歴】

2022年 京都大学医学部附属病院 初期臨床研修  
2024年 京都大学医学部附属病院 リハビリテーション科

アンチエイジング外来

# ボトックス治療を開始！ 美しく健康に年を重ねましょう

内科部長  
井上裕匡



手外科センター副部長  
岸田愛子



皆さんが自分の健康と向き合い、身体的・精神的な健康を楽しんで自己管理できるよう、医師としてサポートすることを目的に、「アンチエイジング外来」を始めました。

そのスタートとして、まずは「見た目年齢」に着目、その改善を目的に、2025年2月から顔へのボトックス注射を開始しました。これは、顔の筋肉の緊張を和らげることで表情皺の改善を図る治療です。当院では、①施術前の丁寧なカウンセリング②安全な投与③信頼されるフォローアップを大切にして治療を行っております。ボトックス治療に興味がある方、ボトックス注射を希望される方は、当院までお問い合わせ下さい。

また、今後は全身の健康管理に目を向けることをコンセプトに「アンチエイジングドッグ」を開始する予定であり、現在準備を行っております。

お問い合わせは ◆ 十条武田リハビリテーション病院 075-671-2351(代表)

## 新看護部長よりごあいさつ

職員の**成長**支える環境づくり  
傾聴し寄り添うケアの向上へ

看護部長／認定看護管理者

鷺見 知子

Tomoko Washimi



当院は、一般診療に加え地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟等の機能を有し、地域の皆さんに質の高い医療・看護サービスを提供しています。

私たちが担うのは、患者さんの声に耳を傾け、心に寄り添い、最善のケアを提供することです。患者さんの「生活の質」の視点を持ち、在宅復帰に向けた療養生活支援・意思決定支援に力を注いでいます。

また、これらを支える看護職等職員が、安心して働き続けられる職場環境の整備にも尽力しております。働きやすさとやりがいを感じられるよう、成長・健康を支援する体制をさらに強化してまいります。

## 患者サポートセンターから

入退院支援業務を  
**強化**しております

今年度より、患者サポートセンター内において新たに入退院支援看護師を2名配置しました。入院患者さんへの早期支援介入や、地域包括ケア病棟での病床稼働の安定、包括期限内に退院できるよう在宅療養支援を行っています。当センターが掲げる「顔の見える関係」構築をさらに強化できるよう努めてまいります。